

第1学年1組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 ようこそ、ついでどうぶつむらへ A表現(2) 立体に表す

2. 題材設定の理由

- 本学級の児童は、明るく意欲的で、多くの児童が図画工作科の時間を楽しみにしている。実態調査でも、97%の児童が図画工作科の学習が好きだと答えている。1学期に学習した「ひかりのくにのなかまたち」では、色セロハン紙や透明袋などの材料に触れ、光の透過性という特質を生かしてつくりたいもののイメージをふくらませ、楽しく活動する中で、形や色、材料を工夫する姿が見られた。また、「チョッキンパツでかざろう」では、はさみとのりの使い方を工夫し、折り紙の折り方や切り方、重ね方などを試しながらつくることを楽しんだ。さらに、造形タイムでは、大きなこいのぼりをつくったり、プルタブならべ競争をしたりする中で、パスやはさみなどを工夫して使ったり、身体全体で材料にかかわったりして表現活動を楽しんだ。この様に、1年生の1学期に「楽しい」という思いを感じながら創造的な技能を働かせる場面を設定してきた。

そこで今回は、身近な材料から様々な動物たちを生み出す活動を通して、材料の形や色などに着目し、思い付いたアイデアを試行錯誤しながら表現したり、つくった動物で友だちと話し合ったり、遊んだりする活動の楽しさを味わってほしいと考え、本題材を設定した。

- 本題材では、身近な材料とふれあうことによって、その形や色などから想像を広げ、思い付いた動物をつくることをねらいとしている。児童は、これまでに動物と接した知識や経験を生かし、材料から思い付いたアイデアを自分なりの方法で表現していく。児童が試行錯誤しながらつくっていく過程で、材料を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら、扱いやすい用具を手を働かせて使うことができるような手立てを工夫し、自分が表したいことを表現する楽しさや充実感を十分に味わってほしい。そして、友達と作品で遊んだり、話を聞き合ったりして鑑賞することを楽しむ時間も大切にしたい。

〈保幼小連携の視点から〉幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続できるようにと本校では、熊西保育所と交流活動を積極的に行っている。今回は、ついでどうぶつむらに、熊西保育園の子どもたちを招待して一緒に遊ぶ時間を設定する。見てもらう相手がいる、と意識することで表現意欲をさらに高めていきたい。

〈小中連携の視点から〉空き箱を使ってつくるこの題材は、2学年で透明容器、3学年で布材料を使い、想像を広げてつくることにつながっていく。この小学校での「表す活動」は、中学校においては、美術科の表現の学習に直接発展していくことになる。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

「であう(導入)」段階では、朝、子どもたちの靴箱から多目的教室(ついでどうぶつむらという設定)までシンプルな形の動物の足跡をつけておき、子どもたちの興味・関心を引き付ける。何種類かの形の足跡をつけておくことで、「たくさんの動物がいそうだな」「どんな動物がいるのかな」と期待感を高め、自分たちでいろいろな動物を想像できるようにする。

「みつける・あらかず(展開)」段階では、自分の思いに合う形にするために、教室に材料バンク

を設置し、休み時間等にも材料を手にとって遊ぶことができるようにしておく。材料と十分にかかわることで、材料を選んだり、組み合わせ方を考えたりすることができるようにする。また、造形タイムで扱ったはさみなどの用具の安全な使い方と、接合のポイントについての資料等を用意し、自分で確かめながら活動できるようにする。動物ができた子どもたちには、多目的教室に動物を連れていくような場の設定をしておき、子ども同士で自然なかかわり合いができるようにする。だんだんと動物が集まってきて、子ども同士で話したり遊んだりする中で、『つっいどうぶつむら』を自分たちで工夫してつくりたい」という思いがふくらむようにしたい。

「あじわう（振り返り・まとめ）」段階では、自分たちが工夫してつくった「つっいどうぶつむら」で、互いの動物で遊んだり、説明したりしながら、形や材料の面白さなどに気付くようにする。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

前時では、活動の初めにパレットタイムを設定し、足跡から「どんな動物がいると思う？」と投げかけ、友達と交流することで、自分のイメージを広げるようにする。

本時では、活動の初めにパレットタイムを設定し、前時でつくった友達の作品を見合ったり、発表し合ったりすることで、自分のアイデアを再確認するとともに、発想を広げたり深めたりできるようにする。

また、つくっている途中でも、実際につっいどうぶつむらに置いてみることでさらにイメージを広げたり、友達が置いた動物を見たり、特徴やつくり方を聞き合ったりすることで、より自分の表現を工夫できるようにする。

【視点3】つくりだすことに熱中するための教師の支援を工夫する視点から

前時までの表現活動から、一人一人がつくりたい動物や、つまずきを予想し、手立てを立てておく。また、造形タイムで扱ったはさみなどの用具の安全な使い方や子どもたちが見付けた表現の工夫などを掲示し、ヒントコーナーとして位置付けておく。

4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 空き箱を主材料にして、すきな動物をつくったり、みんなで飾ったりして楽しもうとする。
発想や構想の能力	○ 自分の表したい動物のイメージをふくらませ、空き箱を組み合わせたたり、紙をつないだりしながら、いろいろな形を考えたりしている。
創造的な技能	○ 身近材料や用具を用いて、空き箱を組み合わせたたり、紙をつないだりする方法を工夫している。
鑑賞の能力	○ 感じたことを話したり、簡単な文章で書いたりしながら、作品の面白さや造形的な活動の楽しさを感じている。

5. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎言語活動	評価規準および評価方法
であう	1 いろいろな形の足跡を見て、どんな動物がいそうか話し合う。0.5	○ 子どもたちの靴箱から多目的教室（つっいどうぶつむらという設定）まで何種類かの動物の足跡をつけておき（シンプルな形）、子ども	【関】 材料の形や色などに着目し、すきな動物を想像することを楽しもうとしている。

	<p>2 材料を並べたり、組み合わせたりしながらつくりたいものを考える。0.5</p>	<p>たちの興味・関心を引き付けるようにする。</p> <p>○ <u>「どんな動物がいるのかな」という投げかけをして、グループで話し合わせることで、発想を広げようにする。</u></p> <p>○ 十分に箱とかかわることで、自分がどんな動物をつくりたいかというイメージを広げようにする。</p>	<p>(行動観察・発言)</p> <p>【発】 材料や形や色などの特徴をもとに、つくりたい動物を思いついている。</p> <p>(行動観察・発言)</p>
<p>みつける・あらわす</p>	<p>3 つくりたいものに合わせて、材料を選んだり接合の仕方を考えたりしながらつくる。③</p> <p>〈本時2/3〉</p> <p>(1) つくったものについてグループで紹介し合う。</p> <p>(2) 試行錯誤しながら、つくる。</p> <p>4 完成した動物をあつめ、</p>	<p>○ 切り込みの入れ方、接合の仕方などで困っている子どもには、ポイントがわかる掲示等を用意することで、自分の思いに合った表現ができるようにする。</p> <p>○ 一人一人がつくりたい動物や組み合わせ方などを見取り、個に応じた手だてをとるようにする。(見取りと手だての活用)</p> <p>○ <u>前時に子どもたちがつくったものを紹介し合うことで、発想を広げたり深めたりできるようにする。</u></p> <p>○ 動物が完成した子どもには、多目的教室に動物を連れていくような場の設定をしておき(本時まで、足跡を増やすなどの、場への働きかけをする)、子ども同士で自然なかわり合いができるようにする。</p> <p>○ 「水飲み場がほしいな」「草むらをつくりたいな」などという子どもたちからの発想で、つついどうぶつむらをつくっていくようにする。</p> <p>○ さらに装飾を加えたい子どもには、図工室の材料ボックスを活用して、子どもたちが主体的に材料を選び、工夫していけるようにする。</p> <p>○ めあての振り返りをし、工夫したところなどを発表し、次時の活動につながるようにする。</p> <p>○ つついどうぶつむらで、互いの動</p>	<p>【発】 材料を組み合わせたなど、思いついたことを次々と試しながら、動物の表し方に生かせる工夫を見付けている。</p> <p>(行動観察・発言)</p> <p>【創】 表したい動物に合わせて、材料の特徴を生かし、工夫しながら表している。(作品・行動観察)</p>

	「つついどうぶつむら」をつくる。①	物で遊んだり、説明したりすることで、場のイメージをふくらませ、動物の住む池や山などをつくることのできるようにする。	
あ じ わ う	5 動物をつくった自分や友達の思いや工夫を話したり書いたりする。①	○ 色、形、材料、イメージに色分けした鑑賞カード（よかったよカード）を使うことで、友だちの工夫しているところに気付くようにする。	【鑑】 つくった動物の形のおもしろさやよさ、工夫に気付いている。 (発言・行動観察・鑑賞カード)

6. 本時の学習 平成27年10月2日(金) 第5校時 1年1組教室・多目的教室

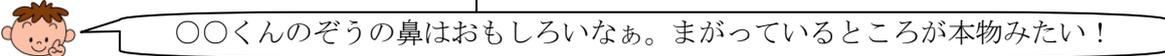
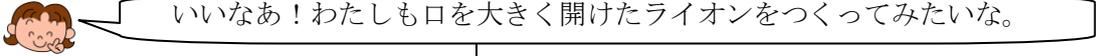
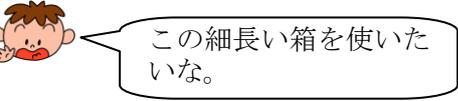
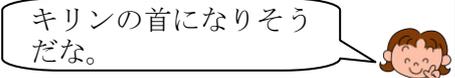
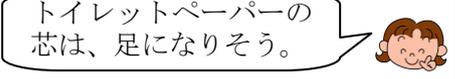
(1) 主眼

材料の形や色などに着目し、思い付いたアイデアを試行錯誤しながら表現する活動を通して、自分がつくりたいものを表現する楽しさや充実感を味わうことができるようにする。

(2) 準備

- ① 教師 あき箱などの身近材料、接着剤、のり、両面テープ、色紙、色セロハン紙など
- ② 児童 集めた材料、はさみ、接着剤、のり

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法）
で あ う	<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1)前時につくったものについてグループで紹介し合う。</p>    <p>めあて つついどうぶつむらのどうぶつをくふうしてつくろう。</p>	<p>○ <u>前時に自分がつくったものを紹介し合うことで、発想を広げたり深めたりできるようにする。</u></p>
み つ け る ・ あ ら わ す	<p>2. 表したいことに合わせて、材料を選んだり、接合の仕方を考えたりしながらつくる。</p>   	<p>○ どんどん活動を始めている児童に対しては、称賛し、さらに意欲的に活動をすすめていくことができるようにする。</p> <p>○ 一人一人がつくりたい動物や組み合わせ方などを見取り、個に応じた手だてをとるようにする。</p> <p>◆一人一人のつまずきへの支援</p> <p>◇発想・構想面の能力を働かせる場面でのつまずき </p> <p>・全く思いつかない児童に対しては、足跡から想像させたり、動物とかかわった経験を思い出させたり、本や絵から好きな動物を選ばせたりする。</p>

筒を足にしたいけど、うまくくっつかないなあ。

あっ、切り込みを入れてのりでつけてみよう。

すぐとれちゃうよ…。どうすればくっつくの？



ライオンに目をつけたいな。どうすればいいかなあ。

あっ、いいこと考えた。ペットボトルのキャップを使おう。図工室の材料ボックスから持てこよう。

キャップをつけるときは、化学接着剤を使おう。

ぼくがつくったカバを、ついでどうぶつむらにつれていこう。

どうぶつむらにどうぶつがあつまってきたね。みんなで遊ぶ池をつくりたいな。

3. 本時の振り返りをする。

ワニの口がパクパクするところを工夫して作りました。次は、えさを作りたいです。

あじわう

- ・使いたい箱と動物が繋がらない児童に対しては、箱の特徴から何に見えるか、何ができそうかを考えさせる。
- ・部分はできたが、その後の組み合わせに迷っている児童に対しては、友達の商品を見て参考にするようにしたり、自分のイメージを話させたりする。

◇創造的技術面の能力を働かせる場面でのつまずき 

- 接着の方法で困っている児童に対しては、教室に掲示している接着の仕方の写真などを見せて考えさせる。
- ・のりで、うまくつけられない時は、のりの量や押さえる力・時間について考えさせる。
- ・箱と筒の接着がうまくできずに困っている児童に対しては、筒に切り込みを入れる方法や、箱に穴を開けて差し込む方法を思い出させる。
- ・ペットボトルキャップなどの接着がうまくできずに困っている児童に対しては、化学接着剤を使えばよいことを思い出させる。

【発】 表したい動物のイメージをふくらませ、あき箱を選んだり、形や特徴を生かしたりして、空想を広げて楽しむことができる。(行動観察・発言)

【創】 箱の組み合わせや付け方など、自分らしい工夫を楽しみながら、自分の表したい動物を表すことができる。(作品・行動観察)

○ さらに工夫したい子どもには、図工室の材料ボックスを活用して、子どもたちが主体的に材料を選び、工夫しているようにする。

○ 動物が完成した子どもには、多目的教室に動物を連れていくような場の設定をしておき、子ども同士で自然なかかわり合いができるようにする。

○ 「水飲み場がほしいな」「草むらをつくりたいな」などという子どもたちからの発想で、ついでどうぶつむらをつかっていくようにする。

○ めあての振り返りをし、工夫したところなどを発表し、次時の活動につながるようにする。